

パブリックコメント手続き

「札幌水道ビジョン(案)」について市民の皆さまからご意見を募集し、いただいたご意見を参考に当初案を一部変更しました。

1 意見募集の概要

(1) 意見の募集期間

平成 26 年 (2014 年) 12 月 22 日 (月) から平成 27 年 (2015 年) 1 月 23 日 (金) まで (33 日間)

(2) 意見の提出方法

郵送、持参、FAX、電子メール、ホームページ上の意見募集フォーム

(3) 資料の配布・閲覧場所

- ・水道局本局庁舎 3 階 企画課
- ・各水道センター
- ・札幌市役所本庁舎 2 階 市政刊行物コーナー
- ・各区役所 (総務企画課広聴係)
- ・各まちづくりセンター
- ・札幌市ホームページ



札幌水道ビジョンフェアの様子

(4) 意見募集の PR

札幌水道ビジョンの紹介とパブリックコメントの PR を目的に、「札幌水道ビジョンフェア」を平成 27 年 (2015 年) 1 月 6 日 (火)、7 日 (水) に札幌駅前通地下歩行空間にて実施し、札幌水道ビジョンに関するパネル展やクイズ、きき水体験を行い、延べ約 2,900 人に参加していただきました。

また、平成 27 年 (2015 年) 1 月 16 日 (金)、17 日 (土) に札幌駅前通地下歩行空間にて実施した「水道凍結防止キャンペーン」の会場で札幌水道ビジョン (案) を配布し、意見募集を PR しました。



札幌水道ビジョンフェアでの配布物

2 意見の内訳

(1) 意見提出者数

15人

(2) 年代別内訳

年代	意見提出者数	意見数
19歳以下	0人	0件
20代	0人	0件
30代	0人	0件
40代	1人	1件
50代	4人	14件
60代	4人	16件
70歳以上	2人	11件
不明	4人	4件
合計	15人	46件

(3) 提出方法別内訳

提出方法	意見提出者数	構成比
郵送	3人	20.0%
持参	2人	13.3%
FAX	3人	20.0%
電子メール	2人	13.3%
ホームページ	5人	33.3%
合計	15人	100.0%

(4) 意見の内訳

分類		件数	構成比
第1章 策定に当たって		0件	0.0%
構 想 編	第2章 基本理念と目標	1件	2.2%
	第3章 札幌水道のあゆみ	0件	0.0%
	第4章 札幌水道の現状と課題	1件	2.2%
	第5章 今後の事業環境と事業展開の考え方	3件	6.5%
施 策 編	第6章 今後10年間の取組姿勢	0件	0.0%
	第7章 重点取組項目と事業の実施計画	23件	50.0%
	第8章 財政収支見通し	14件	30.4%
	第9章 進行管理体制	0件	0.0%
資料		1件	2.2%
その他		3件	6.5%
合計		46件	100.0%

3 意見の概要とそれに対する札幌市の考え方

皆さまからいただいたご意見をもとに、当初案から3項目修正しました。また、その他のご意見につきましては、今後の水道事業運営の参考とさせていただきます。

このほか、当初案に掲載した数値等は最新のものに更新しています。

意見の概要	札幌市の考え方
第2章 基本理念と目標（1件）	
<p>今後長いスパンで考えたら水道局全部を民間の企業に移譲すべき。</p>	<p>水道事業は市民の生命や健康に直接関わる事業であることから、地方公営企業による運営を前提としてさまざまな課題に的確に対応し、柔軟かつ効果的に事業を進め、経営の効率化を図る必要があると考えています。</p> <p>これは、水道事業が地域独占性の高い公益事業であり、さらに施設の更新や災害対策などに計画的な投資を必要とし、これを継続的、安定的に運営する必要があるため、利潤の追求を目的とする私企業ではなく、公共団体の市町村が経営することが適切であるという考えに基づきます。</p>
第4章 札幌水道の現状と課題（1件）	
<p>コラム「塩素は悪者？」で、「塩素は何にでも効くの？」との問いに対する回答がない。</p>	<p>いただいたご意見を踏まえ、本文を以下のとおり修正し、塩素の効果を追記しました。</p> <p>【P12】 コラム「塩素は悪者？」</p> <p>●塩素は何にでも効くの？</p> <p>病気の原因となる微生物などのほとんどに対し、消毒効果があります。</p> <p>ただし、わずかですが、自然界にはクリプトスポリジウムとジアルジア（ここでは「クリプトスポリジウム等」といいます。）のような塩素に強い微生物もいます。</p>
第5章 今後の事業環境と事業展開の考え方（3件）	
<p>一日最大給水量の将来見通しは過大な予測ではないか。</p>	<p>一日最大給水量の将来の見通しは、水道の技術や水質問題等について調査研究を行っている公益社団法人日本水道協会の「水道施設設計指針」に基づいて予測しており、予測に用いる個々の要素は、この指針に示された各種手法の中から本市の状況に最も適していると考えられるものを選択しています。</p> <p>具体的には、一人一日当たりの使用水量と給水人口を乗じて算出される生活用水量と、会社や学校などで使用する業務営業用水量について、それぞれの過去の実績や札幌市内の将来の年齢構成など将来値に影響を与えるさまざまな要素を分析・検討しています。これらの生活用水量と業務営業用水量の合計に、漏水や管の洗浄などで使用する水量を見込み、さらに天候や曜日による変動を考慮して一日最大給水量を予測しています。</p> <p>給水人口は、「札幌市まちづくり戦略ビジョン」の人口の将来見通しに基づいています。</p> <p>また、各家庭の一人一日当たりの使用水量は、高齢化や節水意識の向上等の近年の影響が反映された実績値に基づき予測しています。</p> <p>なお、水道施設の設計には、供給能力が不足しないよう実績の最大水準の変動幅を考慮した一日最大給水量とする必要があり、この値は「発生可能性のある給水量のうちの最大値」であるため、通常であれば実際の給水量はこれを下回るものです。</p> <p>以上のような方法で求めた一日最大給水量は、現時点の最新の実績や札幌市のまちづくりの計画等を反映した適切なものと考えています。</p>
<p>平成37年（2025年）には3人に1人が高齢者となり、8世帯に1世帯が一人暮らしとなる見込みである。高齢者の水道使用量は少ないと思われ、また、景気低迷などから就労している人口が増えており、家で水を使う量が減ることから、これを分析し、将来見通しに考慮すべき。</p>	

意見の概要	札幌市の考え方
<p>平成47年の水需要の予測値を87.2万m³/日から61.8万m³/日に下方修正したことの説明が不足している。</p>	<p>札幌水道ビジョンに示した1日最大給水量の将来見通しは、人口や給水量の最新の実績値に基づき、将来の状況を予測した結果を記載しています。</p> <p>以前の将来見通しから1日最大給水量の予測値が下がった主な理由は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「札幌市まちづくり戦略ビジョン」の人口の将来見通しが下方に移行したこと ②上昇傾向であった家庭の一人一日当たりの水道使用量が、近年は横ばい傾向となったこと ③業務営業用水量は、近年の水量の実績値に基づく分析で減少傾向となったこと
<p>第7章 重点取組項目と事業の実施計画（23件）</p>	
<p>主要事業1 水源の水質保全</p>	
<p>過去に1度だけヒ素の数値が高かったが、今までヒ素による事故が一度も生じていないことから、豊平川水道水源水質保全事業は本当に必要なのか。 (類似意見1件)</p>	<p>現在、水道水のヒ素は適切な浄水処理により水質基準を満たしていますが、札幌市は日本の中でも恒常的に数値が高い状況であり、過去には基準値の9割にまで迫ったことがあります。</p> <p>従って、本事業により、ヒ素等の健康に影響を与える物質を抜本的に取り除くことが必要であると考えています。</p> <p>なお、工事で発生する土砂は、安全性を確認した上で、建設資材としてリサイクルするなど、適切な方法で処分します。また、緑豊かな自然の中で行う事業であることから、事前調査の結果などを踏まえ、導水路工事に使用する作業用の立坑の数を極力減らし、森林内での作業を最小限とするなど、環境に配慮した方法により工事を行います。</p>
<p>導水路のトンネル工事による土砂の搬出や生態系、水脈の影響が懸念される。</p>	
<p>主要事業2 水源の分散配置</p>	
<p>今後人口が減少し水需要量も減少すると考えられる中、浄水場・送水設備や送水のためのエネルギー増加を見込んだ日常の受水の必要性については、市民負担を考慮すると多くの疑問を感じる。当別ダムの水は、緊急時・災害時に利用できる貯水として位置づけ活用していくという方向に転換していくことを検討すべき。</p>	<p>石狩西部広域水道企業団へ参画することにより新たな水源を確保し、水源や浄水場を分散配置することで豊平川への一極集中の状況が改善されるとともに、西部配水池への送水ルートの二重化が可能となります。また、今後必要となる白川浄水場の大規模改修にも活用できることなどから、常時受水することが札幌市民への安全・安定給水のために重要であると考えています。</p>

意見の概要	札幌市の考え方
<p>大災害を想定した対策がすでに講じられているのだから、当別ダムは不要な水源である。 (類似意見 1 件)</p>	<p>石狩西部広域水道企業団へ参画することにより新たな水源を確保し、水源や浄水場を分散配置することで豊平川への一極集中の状況が改善されるとともに、西部配水池への送水ルートの上二重化が可能となります。また、今後必要となる白川浄水場の大規模改修にも活用できることなどから、常時受水することが札幌市民への安全・安定給水のために重要であると考えています。</p>
<p>札幌市の水は十分足りており、当別ダムからの受水は不要。 (類似意見 1 件)</p>	
<p>今後人口減少に転じることが予測されているので新たな水源は不要。 (類似意見 2 件)</p>	
<p>豊平川に依存したため大きな問題が生じたということではなく、具体的にどのようなことが想定されるのかを示すべき。</p>	<p>例えば、他都市で実際に取水停止をしたような、異常気象や局所的な豪雨に伴う高濁度の発生、油の流入による汚染などのおそれがあると考えています。</p> <p>水源の98%を依存する豊平川でこれらの事故が発生すると、取水停止による断水の可能性があります。このような場合においても、石狩西部広域水道企業団からの受水により、一人一日当たり20リットルの水と医療用の水を継続して確保することができます。</p> <p>なお、いただいたご意見を踏まえ、本文を以下のとおり修正し、豊平川で想定される重大な事故について具体的に記載しました。</p> <p>【P40 5行目】</p> <p>これにより、市外に水源や浄水場を分散配置できることから、豊平川で局所的な豪雨に伴う高濁度や油の流入による汚染などの重大な水質事故等が発生し、取水できなくなった場合でも一定量の水道水を確保することが可能となります。</p>
<p>豊平川水道水源水質保全事業ですでに豊平川の事故や災害を想定した事業を行っているにもかかわらず、水源の分散配置では、豊平川で重大な事故があった時にも一定量の水道水を確保できる効果があるという説明について、相違点を明確に示してほしい。</p>	<p>豊平川水道水源水質保全事業により事故・災害時の安全性は大きく向上しますが、水源が豊平川に98%依存していることは重要な課題であり、石狩西部広域水道企業団への参画による水源や浄水場の分散配置も組み合わせることで、安全・安定給水をより確実なものにしたいと考えています。</p>
<p>当別川の上流域は豊平川と比べるとはるかに開発が進んでおり、豊平川のようなおいしい水は期待できない。水質の保証はできるのか？</p>	<p>石狩西部広域水道企業団では、当別ダムの水質に合わせた適切な浄水処理により、水道法で定める水質基準に適合した安全で良質な水を供給しています。</p>

意見の概要	札幌市の考え方
<p>例えば取水・浄水施設を市内に増やすなど、豊平峡ダムか定山溪ダムのどちらかを廃止し、ダムに頼らない水源確保の模索が必要。</p>	<p>豊平峡ダムおよび定山溪ダムはいずれも札幌市民にとって重要な水源です。いただいたご意見は、今後の取組を進める際の参考とさせていただきます。</p>
<p>主要事業 3 水質監視・管理</p>	
<p>水源よりも上流の河川で、橋梁などに添架している下水道管から汚水が漏水するなどして、水源に混入しているような事例などがあれば、直ちに健康に影響がないものであっても、公表してほしい。</p> <p>また、そういった内容を札幌水道ビジョンに明記してほしい。</p>	<p>水源に影響を与えるような水源事故については、各年度の「札幌市水道水量水質年報（※1）」で公表しています。</p> <p>なお、直ちに健康に影響がなくても、水道水が水道法で定められた水質基準（※2）に適合しないおそれがある場合には、臨時の水質検査を行い、検査結果に異常がない場合でもホームページなどで確実に情報提供します。</p> <p>また、札幌水道ビジョンでは、32ページの〈視点I〉利用者とのパートナーシップにおいて、「水道水のおいしさや水源の保全に関する利用者との情報共有や、水道事業の取組について利用者との意見交換などを進めていきます。」と記載しています。</p> <p>※1 水量水質年報は、市内の図書館や区民センターの図書室などでご覧いただけます。</p> <p>※2 水道水には、水道法により水質基準が定められています。この基準値は、生涯飲み続けても問題がない水準からさらに安全性を十分考慮して設定されています。</p>
<p>主要事業 4 取水・導水・浄水施設の改修</p>	
<p>現在、日本では急速ろ過法の浄水場が多いが、維持管理費や水質の確保の点からも生物浄化法を用いた浄水場建設を検討してほしい。</p>	<p>浄水場の改修や更新に当たっては、水道水の安全性を適切に維持しながら、建設費や維持管理費を抑えることができるよう、既存施設の有効な活用方法や適切な浄水処理方式などについて広く検討を進めていきます。</p>
<p>当別ダムからの取水には費用が掛かるので、白川浄水場の改修工事は当別ダムからの取水を考慮しない改修事業とすべき。 (類似意見 1 件)</p>	<p>石狩西部広域水道企業団への参画は、水源や浄水場の分散配置による豊平川への一極集中によるリスク回避や、西部配水池への送水ルートの一重化を目的としています。</p> <p>石狩西部広域水道企業団からの受水を最大限有効に活用することで、白川浄水場の改修工事をより安全かつ効率的に進められるものと考えています。</p>
<p>主要事業 6 配水管の更新</p>	
<p>市内に張り巡らされた配水管の更新及び耐震化は多額の予算を必要とし、計画的な更新が求められるので、人口動態やまちづくりの方向性を考慮して優先順位を決めて進めてほしい。</p>	<p>限られた財源の中で効率的・効果的に配水管を更新していくために、健全性が保たれた配水管は可能な限り長く使うとともに、漏水発生の危険性が高い配水管から更新の優先順位を決め、計画的に更新事業を進めています。</p> <p>また、配水管の更新や耐震化を行う際には、人口の将来見通しから水需要を予測し配水管の適正な口径を検討しており、必要に応じて既存の口径よりも小さな口径で更新しています。</p>

意見の概要	札幌市の考え方
主要事業 10 利用者とのコミュニケーションの充実	
<p>上水だけでなく下水も含めたトータルな水道事業に関する現状と課題を発信し、多くの市民とコミュニケーションを図り協力することの必要性を意識できる取り組みを進めてほしい。</p>	<p>水道局においても、コミュニケーションの強化は重要であると考えており、主要事業 10 「利用者とのコミュニケーションの充実」において、水道事業に関する現状と課題を発信する広報活動を行っていきます。</p>
<p>先日体験した「きき水」のような、水道水が安全でおいしい水であることをより多くの市民にわかっていただく広報活動は非常に効果があるものと思う。</p>	<p>「きき水体験」にご参加いただき、ありがとうございました。 利用者に対する水道事業の広報活動は非常に重要と考えています。今後、安全でおいしい水をより多くの方に実感していただく広報活動として、「きき水体験」を行い、さまざまな機会をとらえ水道事業について広報していきます。 なお、「きき水体験」は平成 26 年度から先行的に実施していますが、大変好評であったことや、いただいたご意見を踏まえ、本文を以下のとおり修正し、「じっかん指標」におけるきき水の体験者数の目標をより高く設定しました。 【P36 じっかん指標「水道水のおいしさを実感するきき水」の体験者数】 目標 平成 27～36 年度の 10 年間で延べ 10 万人</p>
主要事業 12 財務基盤の強化と経営の効率化	
<p>他都市のように下水道と合併してひとつの公営企業として運営したほうが札幌市全体で考えたときに効率的だと思うが、そのことに触れていないのはなぜか。</p>	<p>札幌市全体としては、河川行政の効率化や総務部門の集約化などを図るため、平成 17 年度に建設局と下水道局を統合しました。 現時点では、水道事業と下水道事業の統合の予定はありませんが、今後も引き続き、効率的な組織体制の構築に努めていきます。</p>
第 8 章 財政収支見通し（14 件）	
<p>今後は人口減少に伴い給水収益も減少する中、札幌市の 10 年後の収支予測をわかりやすく示すべき。 (類似意見 1 件)</p>	<p>給水収益は今後も減少傾向が続く見込みですが、施設の更新や災害対策事業は着実に進めていく必要があります。 財政収支見通しは物価変動など社会経済情勢の影響を大きく受けるため、後年次になるに従い積算の精度が低下します。 このため、一定の精度をもって示すことができるのは 5 年分までが妥当であると考えています。</p>
<p>予定事業費は 10 年間で計上すべき。</p>	<p>なお、後半 5 年間の財政収支見通しは前半 5 年間の検証を行い、社会経済情勢の変化や事業の進捗状況を的確に把握した上で収支見通しを作成し、公表する予定です。</p>
<p>札幌水道ビジョンは 10 年間で進めていく取組をまとめているが、水道料金は 5 年以降も現行料金で維持できる見通しなのか。</p>	

意見の概要	札幌市の考え方
<p>平成 27～31 年度の 5 年間の水道料金収入などの収益的収支では 332 億円の黒字、一方、資本的収支では 1081 億円の赤字となっていて、差し引き 749 億円の赤字である。これをどのように補填するのか。</p> <p>また、建設改良費が増加していくことが示されているが、どのように補填していくのか。</p> <p>(類似意見 1 件)</p>	<p>資本的収支不足については、減価償却費など現金支出を伴わない費用の計上により内部に留保された資金である損益勘定留保資金、過年度からの繰越金、当年度純利益、消費税資本的収支調整額により補填します。</p>
<p>建設改良費は将来のための支出なので、本来は企業債で対応すべき。</p>	<p>施設の拡張整備を進めてきた時期には、多額の事業財源が必要であったことから、企業債を積極的に活用してきましたが、その結果、財政の硬直化が進み、元利償還負担が増加するなど脆弱な財務体質となりました。</p> <p>近年は、経費節減などにより確保した利益を活用して企業債の借入抑制と残高縮減に努めるとともに、施設更新のための積立金を平成 22 年度から積み立てるなど、財務体質を強化してきましたが、依然として他の大都市と比べて元利償還負担の割合は高い水準にあります。</p> <p>今後、給水収益の減少が見込まれる中で、施設の経年劣化に伴う更新事業や災害対策事業の財源を企業債に過度に依存した場合、将来に過大な負担を残すこととなります。これらの事業は世代間負担の公平性も考慮し、一定額の企業債を借入れるとともに、積立金等の自己財源を活用しながら進めていきたいと考えています。</p>
<p>「積立金を財源として活用することにより事業運営に必要な資金は確保できる見込み」とあるが、積立金とは何か。</p> <p>(類似意見 1 件)</p>	<p>施設の経年劣化に伴う更新事業費の増加が見込まれていたことを受け、この財源を企業債に過度に依存せず、更新時の財源を確保し、将来にわたって健全経営を維持していくことを目的として、平成 22 年度から毎年度の決算において利益の一部を水道施設更新積立金として積み立ててきました。</p> <p>平成 25 年度決算における水道施設更新積立金の残高は 130 億円となりました。</p>

意見の概要	札幌市の考え方
<p>10m³まで同じ料金であるのを見直すべき。節水に努力している方やあまり使わない方との差を検討すべき。</p>	<p>水道事業では経費のほとんどを料金収入でまかなっていますが、経費は様々で、使用された水の量に応じて増減するものばかりではありません。</p> <p>このため、水道料金は使用水量に関わらず定額を負担いただく「基本料金」と、使用水量に応じた額を負担いただく「従量料金」の2つによる構成としており、このうち「基本料金」はメーター検針費用など水使用の有無や使用量の多少に関係なく固定的に発生する経費を負担いただくものとしています。</p>
<p>基本料金を10m³にしたのは、両親と子供2人の1カ月使用の平均を考慮したためだが、今や50%の家庭が一人暮らしになっている。基本料金は5m³にして、今の半額の料金にしてほしい。</p>	<p>札幌市の家庭向けの水道料金は固定的な経費にかかる「基本料金」の負担はありますが、1カ月につき10m³までは、水の使用量に応じた料金である「従量料金」の負担はない設定となっています。これは、公衆衛生の向上の観点から生活に必要な一定程度の水の使用を促すため、低廉化したものです。</p> <p>水道局の今後5年間（平成27～31年度）の財政収支は、収入の大部分を占める給水収益（料金収入）の減少傾向が見込まれる一方、施設の大規模更新や災害対策事業の実施などから事業費は増加することが見込まれており、財政状況は一層厳しくなる見通しです。</p>
<p>世帯人数の減少に伴い、多くの家庭では基本料金だけの支払いになっているように感じる。節水の意欲も沸かない。口径ごとの使用量の最低基準を引き下げて、利用料の増減を支払料金で実感できる料金体系を望む。</p>	<p>料金制度のあり方については給水収益（料金収入）の増減に直接影響するものであることから、今後の厳しい財政状況を踏まえつつ健全経営の持続を念頭に置き、水の使用状況や負担の公平性の観点を踏まえて慎重に検討を進めていきます。</p>
<p>札幌市の水道料金が他都市と比べて高額なことが納得できない。札幌市の水道は年間を通して水量が比較的安定していて、かつ国立公園内などに水源があるため水質も恵まれており、効率のよい配水システムであることなど、恵まれた地勢にありながら、水道料金はなぜ高額なのか。</p>	<p>一般的な家庭向けの水道料金を比べると、札幌市の料金水準は全国平均とほぼ同水準となっています。また、北海道内の平均と比べると低くなっていますが、大都市の平均と比べると高くなっています。</p> <p>札幌市の水道事業は他の大都市と比べると歴史が浅く、昭和40～50年代の人口が急増した時期に集中的に施設整備を行いました。このため、現在でも施設整備に要した借入金の残高が多く、その金利負担も重いことなどから、他の大都市に比べ料金の水準も高くなっています。</p> <p>水道局では今後とも、効率的な事業運営により借入金残高の削減を進めるなど、健全経営を維持していきたいと考えています。</p>
<p>札幌市外から札幌に入る水には税金をかけ、一般の水道料金を下げるために使用すべき。</p>	<p>水道事業は、地方公営企業として水道の利用者からいただいた水道料金により事業運営を行っています。このため、例えば市販のミネラルウォーターに税金を賦課するような、水道を利用していない方からお金をいただくことは難しいものと考えます。</p> <p>水道局では今後とも、札幌の水道水のおいしさをPRするなど、水道事業への理解を深める取組を進めていきます。</p>

意見の概要	札幌市の考え方
資料 (1 件)	
<p>札幌市水道事業 5 年計画 (2010-2014) の実施状況の「配水管の整備」では、口径 350mm 以下の準幹線・配水枝線延長 4,798km は、目標達成の見込みと記述されているが、長期にわたる事業なのに、なぜ目標達成の見込みとしているのか。</p>	<p>この指標は平成 21 年度の配水枝線総延長 4,748km から平成 26 年度末までに 50km を布設し、配水枝線総延長が 4,798km になることを示した目標値です。</p> <p>なお、平成 26 年度末における配水枝線総延長は 4,805km となり、57km 増加する見込みです。</p>
その他 (3 件)	
<p>水道メーターを 8 年で交換するのを 10 年・15 年で交換するように国に直訴すべき。</p>	<p>水道メーターは計量法により有効期間が 8 年と定められています。有効期間の延長は、全国の水道事業者が加盟し、札幌市も加盟している公益社団法人日本水道協会が、国へ働きかけを行っています。</p>
<p>老朽化した住宅では、水道管の交換時期の判断が難しい。水質チェックなどの地域ごとのイベントがあればいいと思う。</p>	<p>水道局ではお客さまが水道水に異常を感じた時などに、お客さまのご依頼により水道水の水質検査を行っていますので、お住まいの区を担当する配水管理課にお問い合わせください。</p> <p>なお、屋内配管などのご自宅の給水装置に関わるご相談は、指定給水装置工事事業者またはお住まいの区を担当する配水管理課にお問い合わせください。</p>
<p>公営企業なのだから、水道局独自で正職員を採用してはどうか。</p>	<p>平成 6 年度以降は水道局独自の正職員の採用は行っていませんが、今後も安定的な水道事業を支える職員の育成に努めます。</p>

